

# 国語を正しく理解する力を高める音読・対話・読書活動の充実

【松伏町教育委員会】

- 1 学校、学年、教科 小学校、全学年、国語
- 2 ねらい 音読を重視したり、読みの力を伸ばすための言語活動を工夫したり、ペアや全体で話し合う活動を充実させることにより、児童の学習意欲を高めたり、読書の習慣を身に付けさせることにより、文章の内容を正確に理解する力を育成する。

## 3 取組の内容

### (1) ①音読

#### ②視写

#### ③読みの力を伸ばすための言語活動

A 自分の考えをもたせるための手立て

B 自分の考えを広げるための手立て

○各ブロックの手だて

	低学年	中学年	高学年
視写	1分間に○文字 ていねいに、こく、マスいっばいに	1分間に○文字 ていねいに、まとまりで、できるだけ速く	1分間に○文字 ていねいに、まとまりで、できるだけ速く
音読	<b>【目指す児童像】</b> ○しっかりと声で音読できる子 ○文章の内容が理解できる子 ○文章を読んで、自分の考えをもち、表現できる子 <b>【手だて】</b> ○音読の姿勢指導○口形指導○授業での音読の重視（内容に合わせた音読形態の工夫） ○今月の詩、群読の取り組み○学年の系統性を図った音読カード		
	○様々な音読の仕方を工夫する。（※資料1） いろいろな音読方法を取り入れて、あきさせずに何回も読ませる。 ○語の初めは、はっきり言わせる。		
	○語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読させる →声の大きさ、発音	○内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読させる。 →強弱、間、読む速さ、声の高さなどを意識させる。	○自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をさせる。 →強弱、間、読む速さ、声の高さ、視線、表情などを意識させる。
自分の考えを持たせる  言語活動A	○キーワードに線を引かせる。 ○自分の考えをノートやワークシートに書かせる。（ノート指導、ワークシートの工夫） ○大切なところを視写、共書きさせる。 ○大切な部分を書き抜かせる。		
	○言葉の知識を増やすプリントや学習に取り組みさせる。 ○教科書に出てきた漢字・言葉などを使った短文を作らせる		
	○辞書引き（引いた言葉に付箋をはる。）		○文章を書き換えさせたり、言い換えさせたりする。

自分の考えを広げる 言語活動B	○ペア・全体での話し合い（※話形：資料2）		
	○友だちの考えについて、顔を向けたり、頷いたりしながら聞かせる。 ○話題にそって話す。	○考えの根拠に、目を向けさせる。 ○お互いの共通点や相違点を確認しながら聞かせる。 ○質問したり、感想を述べたりさせる。	○発言内容を簡潔にしたり、発言回数に注意させる。 ○立場や意図を明確にして、話したり聞いたりさせる。 ○相手と自分の意見を比べて考えをまとめさせる。

※音読の方法（資料1）

音読の種類	方法	効果、ねらいなど
★追い読み（マル読み） 読んだ文と同じ文を読む。	①教師→児童  ②1人の児童 または何人かの児童→その他の児童	○単元のはじめなど、正確に読ませたい場合に効果がある。 ○句読点、漢字や言葉、アクセントに気をつけて正確な読みができる。
★一斉読み 全員で一斉に読む。	①クラス全員 ②男女別 ③班ごと ④側ごと	○全員に読む機会を保障できる。何回も読ませたい場合、今日の学習場面を読ませたい場合などに用いる。
★1人読み 一斉に自分のペースで読む		○自分のペースで読むことができる
★一文交代読み 一文ずつ交代で読む。	①教師→児童 ②1人の児童または何人かの児童→その他の児童 ③学級の半分 ④側ごと ⑤班ごと	○教師との読みでは、テンポをつかみテンポよく読める。
★一人一文読み 一人一文ずつ読んでいく。 句読点で交代する。	立って読む。 次の人は、立って待っている	○しっかり声を出す、ということを指導したり、その子の音読の力をつかむのにいい。 ○緊張感がある。 ○緘黙の子がいる場合は配慮が必要。
★リレー読み 段落ごとに交代する。	①学級の半分 ②側ごと ③班ごと	○段落を把握させるのにいい。
★リレー読み② 間違えたら次の人が読む		○正確に読むことを指導する。 ○ゲーム的に取り組める。
★たけのこ読み 自分の好きな文をいくつか決めて、その時に立って読む。また、一文ごとに人数をふやしていく。		○心に残った場面や好きな文などと指定すれば、その確認ができる

★役割読み 登場人物などの役割を決め通して読む。		○読解に役立つ。
★対話読み	ペアを作り、読み合いをする ・ペアで教科書を取り替え、読み役と聞き役になる。 ・聞き役は、読めていないところに鉛筆で線を引く。 ・お互いに読み合いをした後教科書を戻し、自分の読めていないところを練習する ・繰り返していく中で、読めるようになったところの線を消していく。	○相手の読みを聴くことができる。 ○自分の間違いを直すことができる。

※金小対話の話形（資料２）

低学年「意見」	中学年「質問」	高学年「関連」
※思ったことや考えたことが言えたか。	※相手の話を受けて具体的に質問できたか。	※相手の話を受けて自分の考えを深めたり引き出したりできたか
○あいさつ 「はじめます。」 「終わります。」		
○意見・考え 「わたしは、～だと思います」 ○理由 「わけは、～だからです。」	○根拠 「わけは、～だからです。」	
○同意 「同じで、～です。」 ○反意 「ちがいます。」 「反対です」	○類似・相違 「似ているところは～です（か）？」 「ちがうところは～です（か）？」	○類似・相違 「～は同じだけれど、～はちがいます」
○疑問 「なぜ、～なのですか。」	○質問 「～は、どうですか。」	
	○深化・追加 「ほかにも～があります。」 「付け加えると、～です。」	○変化・深化・追加 「～だと思っていたけれども、考えが変わりました。」 「というのもあると思います。」
		○言い換え（換言） 「言い換えると、～です。」 「それは～ということですか。」 「それは～と同じことだと思いま

		す。」 ○まとめ 「つまり（結局）、～ということ ですか。」
--	--	---

○ペア対話の流れ

- ①「話題把握」—仲間と話し合う共通話題を確認する。
- ②「心内対話」—話題にもとづき、自分の考えをつくる。一人読みの段階。
- ③「ペア対話」—自分の考えを対面する仲間と音声言語で交流する。
- ④「全体対話」—自分の考えをクラス全員と音声言語で交流する。
- ⑤「個のまとめ」—最終的な自分の考えを整理し、まとめる。

(2) 読書活動の充実

①朝読書による動機付け

毎週金曜日の業前に「読書タイム」を設定し、全校一斉に担任とともに読書を行っている。本を読んだあとは、「読書カード」に書名等を記録し、読書の励みにしている。

②読書の木

図書室の本をたくさん読んでもらうために、各学年の廊下に「読書の木」を掲示し、児童の名前が書かれた葉っぱに、シールを貼っていく取り組みを行っている。また、たくさん本を読んだ児童には「多読賞」の賞状を授与している。

③読み聞かせ

月に1回程度「図書ボランティア」の人たちに低学年の教室へ来ていただき、「読み聞かせ」を行っている。また、読書重点月間には、町外からのボランティアをお招きして「お話会」を行っている。この日は全学年の全クラスで1時間を使って、本やお話の楽しさに浸ることができ、子どもたちにも大変好評で、このお話会をきっかけに本が好きになる子が増えている。

④家庭との連携「親子読書」

「毎月第三ウイークエンドは テレビを消して 親子で読書タイムを」と家庭に呼びかけ、お勧めの本を紹介したプリントを配布し、家庭での読書活動を啓発している。取り組み始めた当初は、読書に親しむ家庭が少なかったが、最近では、9割以上の家庭で親子読書が行われている。

4 成果

- 何度も音読を繰り返すことにより、スラスラとしっかりした声で読めるようになり、情景や感情を表現するために、内容を理解することが必要となり、場合によってはじっくりと黙読することを通して文章を読み取る力が高まってきている。
- 読み取ったことをペアや全体で交流することを通して、自分の考えに対する自信を強めたり、多様な考えに触れることにより、内容をより深く理解したり、学習意欲を高めることができた。
- 様々な読書活動の充実により、本を楽しむ習慣や、本に親しむ習慣がついてきている。このことにより、文章を読むことに対する抵抗感が減少し、文章の内容を正確に理解する力がついてきている。